

「大崎上島町第3次長期総合計画」策定のための
グループインタビュー
《報告書》

令和6（2024）年6月
大崎上島町

目次

1 グループインタビュー(座談会形式)の概要.....	1
(1)開催目的.....	1
(2)開催概要	1
(3)タイムスケジュール.....	1
2 各グループの現状と課題、アイデア・提案等.....	2
(1)地域づくり分野.....	2
(2)産業振興分野.....	6
(3)移住定住分野.....	9
3 資料編.....	15

1 グループインタビュー(座談会形式)の概要

(1)開催目的

「大崎上島町第3次長期総合計画」の策定にあたって、町民参画の一環としてグループインタビュー(座談会形式)を実施しました。

地域づくり、産業振興、移住定住の3つのテーマ毎に町民が普段から感じている課題や意見を把握することや、参加者同士のコミュニケーションを深め、協働によるまちづくりを考えるきっかけとすることを目的としました。

(2)開催概要

開催日時	令和6年(2024)年3月5日(火)17時30分～19時30分
開催場所	大崎上島町役場本庁2階会議室
テーマ	～10年後のまちの姿を考えてみよう～ そのために、各分野における現状と課題を語り合う
対象者	・ 地域づくり:地域団体関係者等(5名) ・ 産業振興:各産業・事業者等(5名) ・ 移住定住:町内への移住者、地域おこし協力隊等(5名)

(3)タイムスケジュール

次第	時間	内容
開会・あいさつ	5分	開会、主催者あいさつ 第3次長期総合計画の概要
趣旨および進行の説明	5分	グループインタビューの趣旨および進行について説明
アイスブレイク	10分	参加者の自己紹介
グループインタビュー	70分	グループインタビュー(座談会形式)
閉会	—	閉会、主催者あいさつ

2 各グループの現状と課題、アイデア・提案等

(1)地域づくり分野

▼事前配付シートに記載された内容

地域づくり分野における現状	
高齢者の増加	
・ 認知症症状の増加 ・ 高齢者の引きこもり ・ 高齢者の買い物困難 ・ 少子高齢化の進行 ・ 高齢者世帯(一人暮らし世帯)の増加	・ 高齢化に拍車がかかり、区内の班活動(葬儀や道作りなど)や、公民館教室、サークル活動の世話人の確保が難しくなっている ・ 団塊の世代は健康意識が高く、運動や介護予防に積極的に取り組んでいる
コミュニティの形成・活性化	
・ ご近所さんの見守り ・ 声かけ ・ コミュニティ活動の参加 ・ 行事等への参加者の固定化(自治会加入率は高い) ・ イベントや行事の減少	・ 近所つきあいの希薄化 ・ 地域住民同士で支え合う力の低下 ・ 地域の居場所交流の場として、地区でいきいき百歳体操、ふれあいサロンを開催している
その他	
・ 孤独死 ・ 防災訓練の実施(避難訓練、救助訓練) ・ 総人口の減少 ・ 通院や買い物等の移動手段が無いため、高齢になっても免許が手放せない ・ 教育を通じたまちづくり	・ 人材不足 ・ 島に関わりたい人の受け皿不足 ・ 地域づくりの窓口が明らかでない ・ 地域づくりのプランとその要望を入れる手続がはっきりしていない ・ 住民の声を聞く機会がない ・ 暮らしのチャレンジづくり
地域づくり分野における課題	
・ 少子高齢化 ・ 個人商店の廃業 ・ 交通手段の確保 ・ 独居者の孤立 ・ 認知症対策 ・ 自死 ・ 通院困難 ・ 地域活動への参加の減少 ・ 新たな参加者関わる人 ・ 地域づくりのための目標計画、ロードマップと一体化したものがない ・ 住民参加の機会が少ない ・ 財政の裏づけが見えない	・ 小地域(区)で住民同士が関わる機会が少ない。特に若い人と接することが無い ・ 住民同士で助け合う意識が希薄になってきている ・ 高齢者はバスを利用する習慣が無いため、運転をやめると行くところが無い ・ 魅力的な空き家不足 ・ 起業などのチャレンジ支援 ・ 関係人口づくり ・ 学生との地域づくり ・ 新しい共助のコミュニティ ・ 働き方の多様化への対応 ・ 集まる機会の縮小 ・ 担い手不足
10年後のまちの姿について	
若者の定住と雇用創出	
・ 子ども、若者が少なく、高齢者が活躍する地域となっている ・ 多様な働き方が認められて、実践されている ・ 若者の定着できる産業起こしのできる環境づくり	

自然と地域資源の活用	
・ 食と職と色のある地域づくり ・ 自然を守り、海を活用した産業(観光、エネルギー)の中心を担う町	
空き家と移住者の増加	
・ 空き家と移住者の増加 ・ 移住者の増加	・ 田舎暮らしが見直され、I ターン、U ターン者が増えてくるのではないかな
地域の魅力化	
・ 少子化に伴う学校の廃校 ・ 全国募集の学校の存在を強みに、案外生き生きしている ・ 教育を通じたまちづくりが盛んになっている ・ 学校教育の魅力化を通じて、地域の魅力が高まっている	
その他	
・ 高齢化率の増加 ・ 医療関係 ・ 介護施設の設備 ・ 伝統文化の消滅 ・ 島の人事部 ・ 伝統の継承 ・ 担い手の高齢化に伴う特産品の消滅 ・ 独居、高齢夫婦のみの世帯が増え、地域の行事(祭、運動会、冠婚葬祭等)が大きく変化 ・ 令和17年人口:5,640 人(0~14 歳:322 人、15~64 歳:2,996 人、65 歳以上:2,322 人)高齢者人口:2,322 人(65~74 歳:727 人、75~84 歳:774 人、85 歳以上:821 人)高齢化率:41.2%(65 歳以上割合)。団塊ジュニア世代層(1971 年から 1974 年生まれ)が 65 歳を超え、全人口に占める 65 歳以上の高齢者の割合が約35%に達すると予測	
10 年後のまちの姿について、自分や関係者で取り組めること	
地域コミュニティ・交流の強化	
・ ご近所付き合い①声かけ運動②引きこもり対策③四季折々にイベントの開催④伝統郷土料理の継承 ・ 日頃からの地域の行事などを通じた交流などにより、地域住民と協力し合いながら、お互いの顔が見える関係の構築を支援する ・ 世代を超えて人が集まり、交流ができる機会をつくり、行事への参加を広く呼びかける ・ 住み慣れた地域の中で、気軽に集まれる居場所作りを支援する ・ 近隣が仲良くする ・ 地域連携事業の創出 ・ 人が集まる場所には積極的に出かける	
互助・共助の精神の啓発	
・ 「自助互助共助公助」のもと、地域での集まりの機会を通じて、自分たちのことは自分たちで、地域での関わり合いの大切さを周知、啓発する ・ 近所同士のあいさつや安否確認などからはじめて、助け合いの「輪」を広げていくことを推進 ・ 元気な時から、困った時はお互い様! の精神を培う ・ 仲間で助け合う、誘い合う	
その他	
・ 体操など、介護予防に取り組む ・ 自分で目標を持って生活をする ・ 学校教育の魅力化 ・ 生涯教育社会教育の魅力化	・ 働き方の多様化の促進 ・ 島の人事部 ・ 暮らしの魅力化事業 ・ 各々で町づくり(集落の未来)を議論できる。そのための課題を出して欲しい

10年後のまちの姿について、行政に取り組んでほしいこと	
住民への支援	
・ 住民同士では対応できない人への積極的な対応 ・ 地域づくりに関して、住民の福祉意識を高めるためのワークショップ ・ 子育て支援 ・ 活動などの参加できる環境づくり ・ 人材育成確保の支援 ・ 交流や生きがい活動の場づくり ・ 居場所づくりへの支援 ・ 職員の地域での関わり、リーダー的な存在として積極的な地域活動	
施設の充実	
・ 高齢者施設の設備点検及び増設 ・ 医療機関の確保(整形外科、眼科等)	・ 魅力的な学校、教育づくり ・ コンセプト型お試し移住体験づくり
その他	
・ 伝統文化の継承 ・ まちおこし PR 活動 ・ 人材育成、担い手不足 ・ 空き家改修	・ 地場産業の支援、継業 ・ 地域行事の評価 ・ 町づくりの計画に対するロードマップ(財政)の作成

▼グループインタビューの意見集約結果

個人	
・ 仲間で声かけ誘い合う ・ 近隣と仲良くする ・ 出かける場所を作る ・ 近所同士の挨拶、気にかける	・ 暮らしの魅力化プロジェクト ・ 地域づくりに気軽に参加したい ・ 積極的に出かける ・ 行事を保っていききたい
団体	
・ 教育の魅力化 ・ 継業仕組み化	・ 島の人事部 ・ 子育て移住づくり
地域	
・ 声かけ運動 ・ 働き方の多様化 ・ いきいき百才体操の拡充 ・ 子ども達との交流	・ 困った時はお互いさまで助け合う ・ おすそわけクラブ ・ 地域の行事集まる機会を維持する
行政	
・ 学ぶ豊かさがある町 ・ 子ども ・ まちおこし PR 活動 ・ 教育の魅力化 ・ お金のかかることでも心配せずに要望できれば良い ・ 生涯学習、社会教育魅力化	・ 明るく楽しく働ける場の確保 ・ コンセプト型移住体験づくり ・ 地域行事の再定義評価 ・ 地域(他地域)連携事業の創出 ・ 行政職員は地域の行事等でのリーダー的な存在となる
その他	
・ 出会った人とあいさつが当たり前の町 ・ 教育からの町づくり	・ 地域が元気な町 ・ コミュニケーションを基本にした町づくり

グループインタビューの様子



(2)産業振興分野

▼事前配付シートに記載された内容

産業振興分野における現状	
産業・農業・造船業	
・ 造船業は順調に新造が続いている ・ 農業はひろしまレモンの増収と施設園芸(トマト)の充実！若年Iターン農業の定住 ・ 新規就農者に対しての育成農業や知識は受入研修先に委ねている	・ 農業部門でもその他の分野でもどういう状況が役場にとって、島にとっての振興なのかおしえてほしい→そのビジョンに向かって現状を把握 ・ 働いている人が多い(企業) ・ 企業が進出している
人口減少	
・ 人口減による担い手不足(商工業、介護、教育) ・ 町内顧客を対象に求めている事業は、人口減少もあり衰退する傾向にある	・ 町外顧客を対象にした事業、造船業、農業、観光分野は、各自特色を生かして経営を行っている
その他	
・ 教育の島、造船の島の認識が強い ・ おためし暮らし ・ 子どもの居場所づくり(フリースクール)	・ 交流ーいい場 ・ おもしろい考えの人がいっぱいいる(学んでいる人)⇒出会いやすい規模感、イベントの多さ等
産業振興分野における課題	
人手不足	
・ 地場産業における従事者の高齢化と後継者不足 ・ 高齢化による放任園の増加と農作物害獣対策 ・ 少子高齢化に伴う労働者不足	・ 従業員不足 ・ 研修生受け入れ農家が少ないので、特定の農家に集中する ・ 少子化
その他	
・ 新たに借りられる農地(柑橘)が少なくなり、新規就農者が農地の取得に苦労している ・ 町内の市場規模の縮小 ・ 担い手の育成:支援制度の充実	・ 「こうしたい！」と思って動く人がどのくらいいるのか…。(言ってもかわらないとか) ・ 大崎上島といえば〇〇というコンテンツが不足している
10年後のまちの姿について	
人口減少と高齢化	
・ 高齢化に伴う自動車運転免許の返納 ・ 人口減少が加速している	・ 農家の数が減っている ・ 人口減による担い手不足
空き家	
・ 空き家が増えているが、大きな変化は無いと思う	・ 危険家屋 ・ 空き家の増加
その他	
・ 自治会等の維持 ・ 祭行事等コミュニティの存続 ・ 医療機関及び介護施設スタッフの減少 ・ 安定した税収が見込める産業の樹立 ・ 農業、観光業IT化の検討 ・ 企業誘致 ・ 新規事業の養殖業、eスポーツ etc.	・ 造船、農業は各社特色を生かして事業を発展させている ・ 島の強みである観光産業の発展 ・ 買い物難民の増加 ・ 選択肢がない(小学校統廃合、木江衰退、孤立、)⇒島外へ人が流れる

10年後のまちの姿について、自分や関係者で取り組めること	
・ 町や地域の生活ルールに出来るかぎり、正しい生活する ・ 高齢者向けのカルチャーに参加 ・ 島のシンボル作り、ゆるキャラ ・ 事業者同士の情報を共有し形にする ・ 地域の魅力を伝える	・ 農業を通して島の暮らしを自身が楽しみ、島もまた、島内外で出会う人に知ってもらって交流の場を作る ・ 何に取り組んでいるのか知ろうとする ・ 本気で島の教育を良くしたいプロジェクトチームを作る等
10年後のまちの姿について、行政に取り組んでほしいこと	
・ 公共交通網の充実 ・ 環境整備(小路、側溝等の清掃) ・ 定住促進 ・ 空き家の活用 ・ 若い人が安心して子供を生み、育てられる環境の構築(財政支援を含む) ・ 医療タワー ・ 空き家対策 ・ フランクに話せる雰囲気(会議じゃないと話せない等)	・ 観光事業の担当部署の創設 ・ 担当者が島内の観光事業の活性化を行う ・ むやみやたらな道路の工事を税金でやらないでほしい(人口増加の見込みがないのに) ・ 今、過ごせている島の暮らしや自然環境を壊さないでほしい ・ 取組の見える化 ・ 高齢者のことを考えている比重が多いという声をきく

▼グループインタビューの意見集約結果

10年後のまちの姿について	
子育て	
・ 子育てしながらも仕事ができる島少子高齢化の『高齢』を、プラスに生かす ・ 若い人が安心して子供を産み、育てられる環境の構築 ・ 高齢の方のベビーシッター(凝り固まった考えを捨てて)	
教育	
・ 日本一の教育の島 ・ 選択肢がある(例)・小学校<普通学校 特色ある学校・農業<観光栽培 自然栽培など ・ 教育(学校)の充実化(農業 造船 漁業 観光『やりたいことが学べる島』)	
農業・産業	
・ みんながつながる(産業)町 ・ 農業を通して島の暮らしを自身が楽しみ、島内外で出会う島外の方に島を知ってもらって地域の魅力を伝える ・ 日本一の農業の島 ・ 優良農地を守る ・ 安定した税収の見込める産業の樹立	・ 養殖業が盛んな町 ・ 農業コーディネーターを作る ・ 行政にとって島の農業がどうなって欲しいか考えて、教えてほしい ・ 安心な農業セーフティーネット ・ 農業、造船は1つの手段なだけ
企業・事業	
・ 新規事業がしたくなる島	・ 積極的な企業誘致
コミュニケーション	
・ 色々な考えを受け入れる ・ 自由に発言できるように ・ 同調圧力の空気を変える ・ 民泊ネットワークの構築	・ フランクに話せる雰囲気(会議でないと話せないのはおかしい) ・ コミュニケーション上手な島(受け入れる姿勢、できない人は学ぶ)
PR	
・ 船の進水式を町ホームページで PR	・ 島のシンボル作り。島のゆるキャラ

自然環境	
・ 今、過ごしている島の暮らしや自然環境を壊さないでほしい	・ キレイな空気自然は続いてほしい
行政	
・ 70年後のまちづくり課を作って実行する	・ 行政の特区を目指す
その他	
・ 医療タワーの建設 ・ 自由な発想の方を招いて講演(全員参加) ・ 今を大事にする ・ 島の魅力さがし ・ 魚釣りがしたくなる町 ・ 空き家の活用 ・ 居心地の良い島	・ eスポーツが生で見れる町 ・ I ターン定住者が増えて学校が賑やかになる ・ 人口減による担い手不足・自治会等の維持・コミュニティの存続 ・ 人口増加の見込みが無い中で、むやみやたらな道路の工事を税金でやらないで欲しい

グループインタビューの様子



(3)移住定住分野

▼事前配付シートに記載された内容

移住定住分野における現状	
移住者の増加	
・ 垂水団地などの移住定住促進住宅 ・ その活動の関係者が島を訪れる人がいて、それらに関わることを目的に、学生、若者、保護者を含めた移住定住者がいる ・ 移住してチャレンジしている人が多い	・ 移住者が増加することで様々な世代、出身者、経験者と関われる ・ 移住者にウェルカムな雰囲気がある ・ I ターンの実感が増している
教育活動	
・ 大崎海星高校魅力化プロジェクトや広島観智学園、広島商船高専といった活動が実を結び、大崎上島が教育活動に注力していることが認知されている	・ 地域で子供が育つ ・ 島スクールを実施している
自然環境の良さ	
・ 自然居住環境がとにかく良い	・ 海や山といった自然の特色が強い
移住者へのサポート	
・ 気軽に住める住居が無い。どこに相談したらいいのかわからない。町内に民間の不動産屋が無い、空き家バンク(改修等が必要な場合があり、ハードルが高い)や人づてで物件を探さざるを得ない	・ マイカー以外の移動手段が充実していないため、移動の際に不便を感じる ・ 移住後のサポートなどが特にならない
地域コミュニティへの参加	
・ 受け入れてくれる風土がある ・ 移住したばかりの頃はコミュニティ等に入れずさみしさ(逆に地域行事の煩わしさ)を感じるかも	
医療施設	
・ 町内に総合病院が無い、安心して暮らすことができない。通院の場合、町外への移動の負担(距離、仕事面、金銭面)が大きい ・ 小児科、産婦人科がない	
その他	
・ 最低限の生活環境が整っている ・ 地域おこし協力隊制度を活用している ・ 土地家賃が安い ・ 町内で働く場所がない ・ 必要以上のものが無い ・ 大崎上島の注目度は高まっている	・ 農業の研修生度がある ・ 自宅での時間(家族、趣味)を大切にできる ・ 無駄遣いが少ない ・ 配送料が意外とかわからない ・ 保育園等の待機児童になる心配がない ・ 同級生が少ない
移住定住分野における課題	
住宅の不足	
・ 移住定住の希望者の受け皿となる住居を確保(整備またはあっせん)する必要がある	・ 住める家が見つけれられない ・ すぐに住める家が少ない
地域の魅力発信	
・ 大崎上島町の魅力を効果的に発信するため、PR動画やホームページのほか、メディアの活用を積極的に図る必要がある	・ 「教育の島」について、SNS を中心とした町外向けの広報不足 ・ 住んでみないと島の魅力が伝わらない
仕事の選択肢の少なさ	
・ 仕事の選択肢が少ない ・ 仕事(業種)が少ない	・ 仕事が見つけれられない

その他	
・ 総合病院の建設や遠隔診療など、住民の安心安全を担保する必要がある ・ フェリー代(特に車両)が安くはならないのでどうしてもネックになる ・ 公共交通を含めた移動手段を充実させる必要がある ・ 最初の入口として、島外に「移住相談窓口」とあるとよい(例:尾道市) ・ 雇用機会の創出を図るため、企業誘致に力を入れる必要がある ・ 島内の人に知り合う機会が少ない ・ 移住定住促進を推進する団体もしくは関係者が不明確となっており、課題感を感じつつも中心になって取り組む当事者がいない ・ 通ってくれる方の基地となるような場所があると良い(観光案内所が既にそういった役割を果たしている) ・ 「良いとこだわ～」と「住みたいわ～」には何か大きな壁がある ・ 移住定住のメリットが弱い	
10年後のまちの姿について	
空き家の増加	
・ 移住者にとって、改修済みの空き家の選択肢が複数ある	・ 10年間で人口変動は安定化に向かい、空き家は増加する
子育て支援教育環境	
・ 子供を育てたいと思える町(教育、有機、SDGs、ウェルビーイング、エシカル) ・ 子育てがしやすい町として子供を育てたいといった想いを待たれるような、子育て環境や子育て支援 ・ 教育の島として、学校教育や社会教育を目当てに移住してくる人がいる ・ 離島での教育を目的とした移住定住者が生まれ、相互に意見交換する会が生まれている。町内の教育関係者が島全体での教育活動を充実するために定期的な意見交換会が行われており、各学校もそれぞれの特色を生かしながら地域住民と協働して教育に取り組んでいる	
コミュニティの活性化	
・ 稀有なコミュニティに全国的に注目が集まり、関係人口が増える ・ たくさんのコミュニティがある ・ 元々、3町が合併した経緯もあり、行事やお祭り、学校等も地域で区切られていたが、地域の境界がなくなり、一つの大崎上島町として活性化している姿であって欲しい	
新技術の活用	
・ 新しい技術を活用した移動手段により、移動の制約が無くなっている ・ AI やドローン等の活用でどこでも仕事ができるようになり、大崎上島町への移住者が増加。移住者が増えることで様々な事業や個人店舗が増え、地域が活性化	
移住定住へのサービス	
・ 移住定住者に選ばれる人気のある町になっている ・ 移住定住したい人へのワンストップサービス(家の紹介、人の紹介、仕事の紹介)の機能向上(移住定住コーディネーター、Web サイト、SNS など) ・ 気軽に住める快適な住宅が整備されている	
その他	
・ 住民が安心できる医療環境が整っている(ハード整備に限らない) ・ 企業進出が進み、町内に魅力ある就職先がある ・ 町にUターンしてくる学生が増えている ・ 「未開発の離島」としてさらに希少価値が上がり、島に愛着を持った人たちがそれぞれ輝いている ・ チャレンジした人がさらに次にチャレンジする人を応援する循環が生まれている	
10年後のまちの姿について、自分や関係者で取り組めること	
地域の魅力や特産品の発信	
・ 事業者間の連携による町の魅力創出 ・ 魅力ある特産品の開発	・ 動画サイトによる町の魅力発信 ・ 町の美しい風景の SNS 発信

コミュニティの形成と参加	
・ 様々なコミュニティに参加し、住民同士のつながりを広く大きくしていく ・ 外国語、バドミントンでコミュニティを作る ・ 地域の繋がりを大切にする	
仕事・事業者の支援、住宅情報の提供	
・ 町内事業者の応援(飲食店など)	・ 町の仕事、住宅などをまとめたサイト
教育の充実と発信	
・ 社会教育や学校教育の充実 ・ 島の仕事図鑑および大崎海星高校魅力化プロジェクト、学校間連携事業の経験を活かして、島の教育に焦点を当てた外部向けに移住定住促進イベントや研修の開催	
その他	
・ 島全体に対して一人の価値が高いからこそ、島の未来を真剣に考えて声を上げる ・ 行政との協働によるまちづくり	・ まずは自分が島を楽しむこと ・ 子ども達に島で生まれてよかったと思ってもらふこと
10年後のまちの姿について、行政に取り組んでほしいこと	
教育の取組の強化	
・ 教育の島のブランディング ・ 学校関係者のゆるやかな意見交換の開催 ・ 生徒のプロジェクト共有会へ町として参加および支援 ・ 高校が3校ある魅力を最大限に活用(小中学生と高校生の交流や授業など)	
経済の活性化	
・ 民間のコレクティブインパクトを活かせるように、積極的に連携投資	・ 企業誘致の推進(企業支援) ・ 起業支援
移住定住の促進	
・ 子育て世代の移住に注力 ・ 移住定住を目的とした島ツアーの定期的な開催 ・ 定住にこだわらず、「移住してみる」へのハードルを下げるような施策 ・ 住宅の整備・確保	・ 空き家情報の収集、まとめ ・ 先行して事業支援を行ってほしい(需要が増えてから支援するのではなく、事業や支援を先に整えておくことで、その制度を求めて移住する人が増加する可能性がある)
その他	
・ 町ホームページや広報紙による積極的な情報公開(良い取組の紹介) ・ 医療機関との連携	・ 子育て世代への経済的支援 ・ フェリー代の補助(町民に対してのみ) ・ 公共交通の充実に向けた検討

▼グループインタビューの意見集約結果

子育て	
・ 本当の学校選びができる島 ・ 社会教育で学校教育の充実 ・ “小学校”魅力化プロジェクト先進地	・ ここで子育てをしたいと思える ・ 子育て世代のつながり ・ 単式学級の小・中学校
住まい	
・ 気軽に住める快適な住宅が整備されている ・ 空き家活用	・ 住宅の整備・確保 ・ 空き家の整備(あっせん) ・ すぐに住める良質な空き家
夢	
・ 移住者に選ばれ人気のある町になっている ・ 繋がりのある教育文化生活を大きな 1 つの大崎上島へ ・ 移住者・地元民の粋がきえている島 ・ 他の自治体より民間と行政が近くタッグを組める ・ 「未開発の離島」としてさらに希少価値が上がる	・ 世界一の教育の島 ・ 教育をテーマに地球の裏側から人がくる島 ・ 島に愛着を持った人達がそれぞれ輝いている ・ 島教育の新しい語り“小さな日本の未来を作る島” ・ ヒト作りの島 ・ 共育の島
情報発信	
・ 子供を育てたいと思える町(教育、SDGs、ウェルビーイング、エシカル、オーガニック) ・ 学校教育や社会教育を目的に移住してくる人がいる ・ 島外の窓口やSNS、メディアで大崎上島のことを知れる機会が増える ・ 移住定住のワンストップサービス ・ ストーリーが見える島	・ 町にUターンしてくる学生が増えている ・ 大人の修学旅行受入れ先日本一 ・ 動画サイトによる町の魅力発信 ・ 魅力ある特産品の開発 ・ 町の美しい風景の SNS 発信 ・ 「教育の島」をテーマとしたストーリーの作成 ・ 島の未来を真剣に考える主体であり続ける。
コミュニティ	
・ 定住にこだわらず関係人口が増える ・ 教育関係者のつながり ・ 様々なコミュニティに参加→島民ネットワークを広く大きく！ ・ 稀有な“コミュニティ”に全国的に注目が集まる(研修・旅行・移住) ・ たくさんのコミュニティがある ・ チャレンジの循環 ・ 行政との協働によるまちづくり	・ 生徒のプロジェクト共有者へ町として支援および参加 ・ 民間のコレクティブインパクトを活かせるように連携・投資 ・ 地域のつながりを大切にする。地域行事に参加する ・ 町主催の島での教育活動共有会の開催 ・ 自分の得意なことで新しいコミュニティをつくる
インフラ・雇用	
・ 住民が安心できる医療環境が整っている(ハード整備に限らない) ・ 新技術を活用した移動手段により移動の制約が無くなっている ・ 企業進出が進み、魅力ある就職先がある ・ 病院の増加 ・ 島外へのハードルを下げる(フェリー等)	・ 起業支援 ・ 医療機関との連携 ・ 公共交通の充実に向けた検討・調整 ・ 企業誘致の推進 ・ 町民へのフェリー代補助(主に車両) ・ 定住にこだわらず「移住してみる」へのハードルを下げる事業 ・ 事業間の連携による町の魅力創出 ・ 町内事業者の応援(飲食店に通うなど)

その他	
・ 移住定住を目的と“教育”移住をテーマにした島ツアーの定期開催 ・ Iターン者にインタビューした内容をまとめたサイト ・ 島外に移住相談所 ・ 高齢の移住者は若者と関われることを理由に移住してくる ・ 特色のある個人店舗	・ まずは自分が島を楽しむ ・ 教育の島のブランディング ・ 子育て世代の移住に注力 ・ 教育をテーマとした移住定住イベントの参加、開催 ・ 企業向けに島の教育コンテンツを応用したプログラム作り ・ 仕事、家のまとめサイト

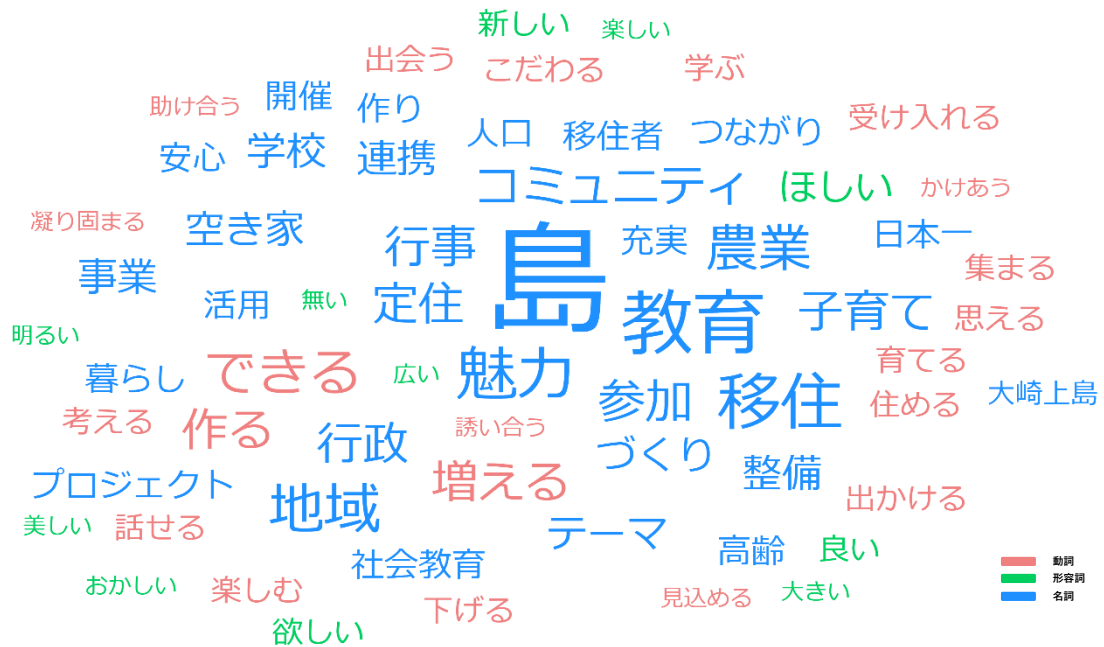
グループインタビューの様子



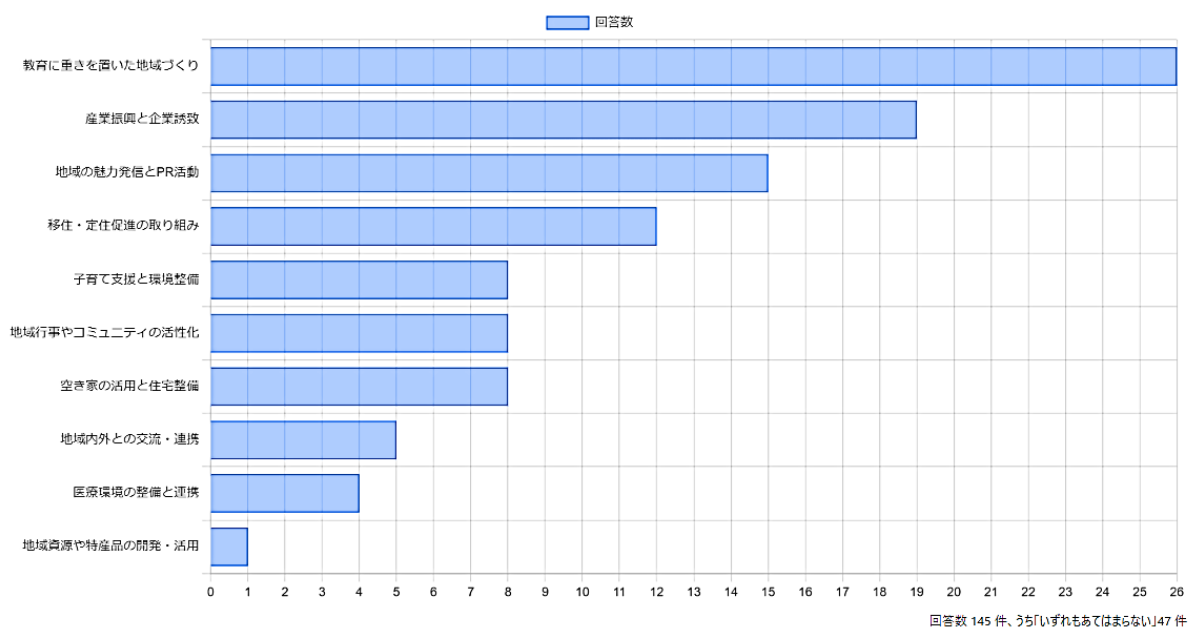
グループインタビューまとめ

グループインタビューで得られた結果について、地域づくりグループ・産業振興グループ・移住定住グループの意見をテキストマイニングで整理しました。(回答件数145件)

教育に重きを置いた地域づくりを推進することや、移住・定住促進の取組に注力することなどの意見があげられました。



テキストマイニングツール「AI テキストマイニング」より作成(<https://textmining.userlocal.jp/>)



アンケート自由回答の分類ツール「コーディスト」より作成(<https://codist.and d.co.jp/>)

3 資料編

大崎上島町第3次長期総合計画策定のためのグループインタビュー実施にあたり、参加者に事前に配付したシートは以下の通りです。

参加者への事前配付シート

以下の点についてお考えをご記入の上、当日、このシートをご持参ください。
(一人ひとりにインタビューしたり、意見交換したりしていただきますので、その際に、このシートをご参考になさってください。)

●●分野における現状（良いところも含む）	●●分野における課題

10年後のまちの姿について

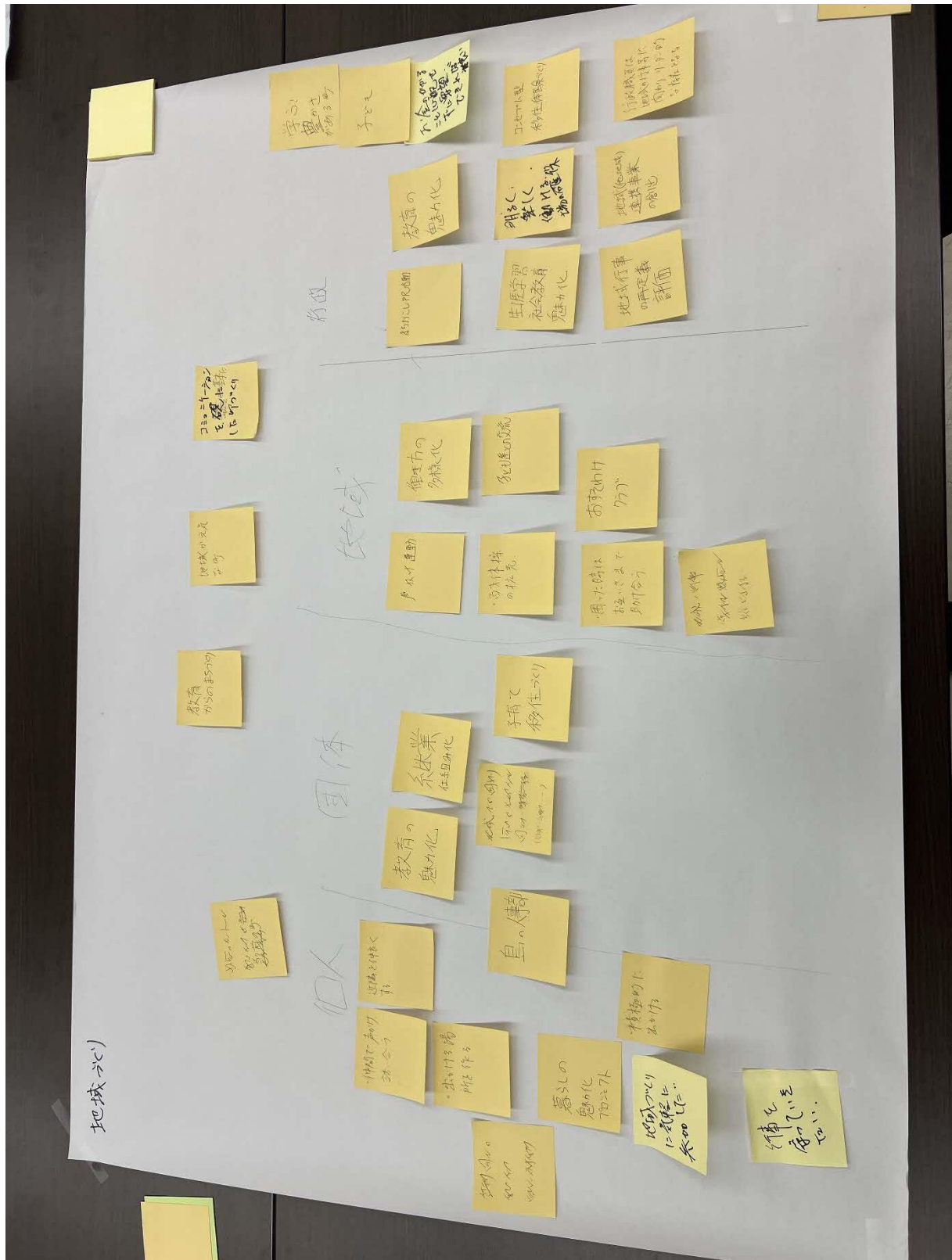
--

10年後のまちの姿について、以下の点についてお考え下さい

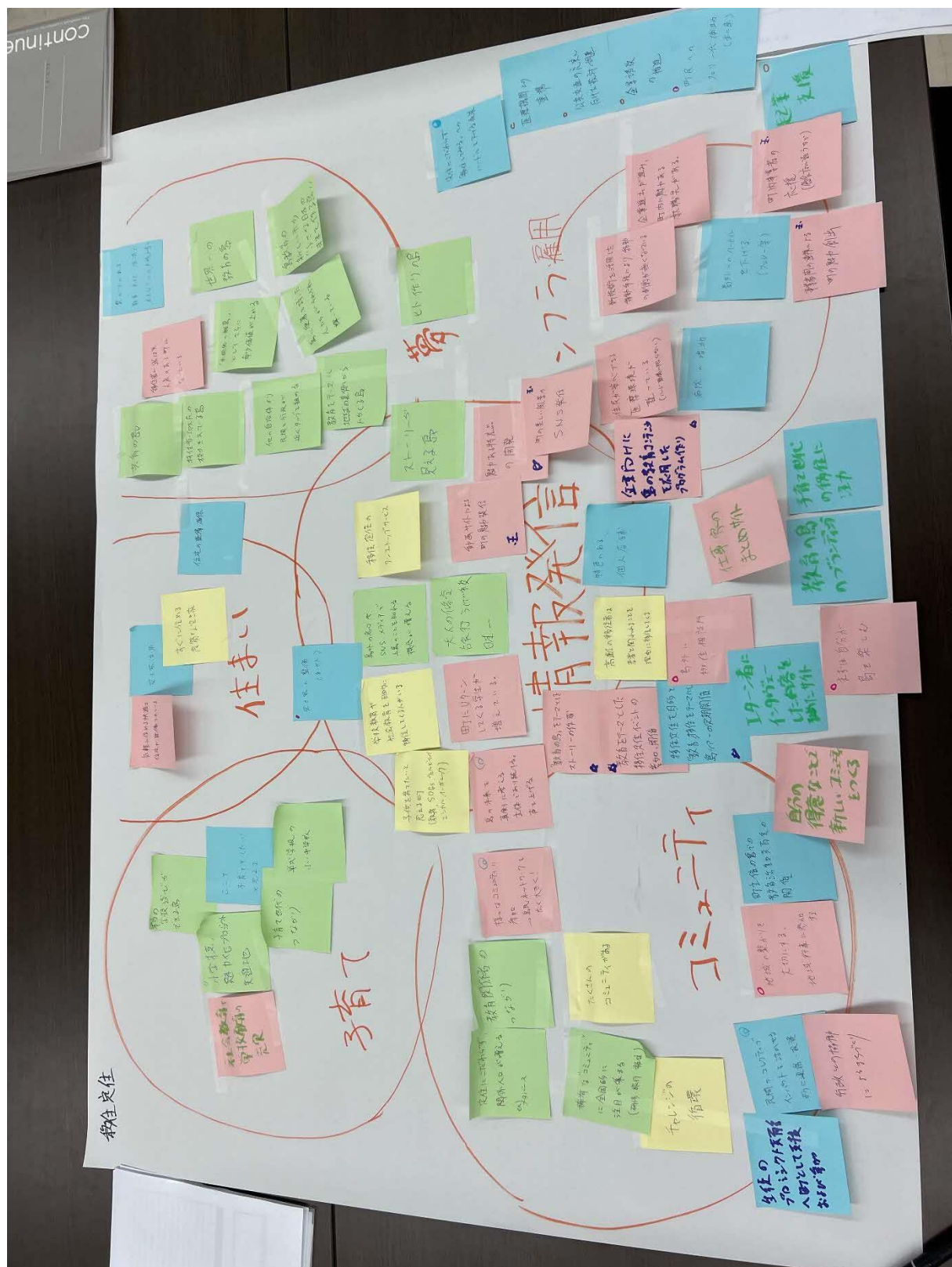
・自分や関係者で取り組めること	・行政に取り組んでほしいこと

大崎上島町第3次長期総合計画策定のためのグループインタビューで作成された各グループの検討結果をまとめた資料は以下の通りです。

地域づくり分野



移住定住分野



「大崎上島町第3次長期総合計画」策定のための
グループインタビュー
《報告書》

令和6（2024）年6月

企画・編集 大崎上島町企画課